産業建設常任委員会　8月8日

１湯沢町観光協会の現況と事業展開について

会長、専務理事から今年度は湯沢スキー伝承１００周年、上越新幹線30周年、日中国交正常化40周年、北信越かがやき総体登山大会、ＦＩＳフリースタイルスキーＷ杯など湯沢観光にとって好機であると平成24年度重点事業等の説明を受けた。

Ｑ ベテランスタッフの退職に問題はないか、研修方法も弱すぎるのではないか。

Ａ 職員の能力アップを図る努力をして新しい人が育ってきている。

Ｑ スキー１００周年、新幹線30周年は自分達だけで言っていることで、観光客には関係ないのではないか。しっかりとした方向を出さないと意味がない。

Ａ 各委員会で方向性を検討する。

Ｑ 駅から観光客が外に出る企画をＪＲが「レルヒさんを探せ」という企画で初めて取り組んだ、次につながる展開を期待したい。緊急雇用対策の補助金が無くなった後の人件費の確保と今年度で国の支援が終了する雪国観光圏は観光協会が母体となって展開することが必要ではないか。

Ａ 違う企画も提案して推進したい。緊急雇用には今後若干の心配がある。

２湯沢町観光振興計画の進捗状況について。

4月から4回の幹事会で計画の序論、問題点の検証、基本的な考え方を議論し、アンケート調査を実施している。前半部分ができたら策定委員会で検討し、戦略と戦術の検討を行う。観光振興計画の策定は年度末を目途としている。

Ｑ 幹事会と策定委員会の関係は。又、そのメンバーは。

Ａ 観光関係団体等の実務者を中心に幹事会を組織し、素案をつくり策定委員会に上げ検討することとなる。女性の参加がないのが懸念される。

・策定委員会（11名）
観光協会長、商工会長 他

・幹事会（19名）
観光協会、商工会 他

３三俣振興対策について。

今年度事業の進捗状況についての説明があった。

Ｑ 道の駅発注が9月であるが、今年度の予定工事の取り組みは。

Ａ 建築本体工事である。

Ｑ 指定管理者の選定状況は。

Ａ みつまた未来町づくり協議会で募集し、現在4組の応募がある。何をやるかは聞いていない。

Ｑ 指定管理者が何をやるかによって内容も変わってくる。使い勝手の良い施設にしなければ意味が無い。早急に指定管理者を決定して、その意向を建築工事に反映させる必要があるのではないか。

Ａ 早急にしてい管理者を決めて対応したい。

視察研修報告　7月18日～20日

総務文教常任副委員長　髙橋　綾夫

木島平役場（小水力発電）、大町市（小水力発電）、上田市（小中一貫校の運営状況）、伊那市（ペレットストーブ）、宇都宮市（小中一貫教育の現状）視察を行なっての感想

・小水力発電について

湯沢町にある豊富な水資源を活用する上で、エコでクリーンなエネルギーである小水力発電導入は積極的に取り組むべきと考えます。今後、新エネルギー財団及び経産省から資料提供と助言を求め、実現に向けた取り組みを早期に始め、将来はマイクロ発電（１００ＫＷ以下）とナノ発電（10Ｋｗ以下）を含め、エネルギーの自給自足をも視野に入れた開発により、エコな湯沢町を創っていくことが必要と思います。

・ペレットストーブについて

当湯沢町には水資源と並んで豊富な森林資源があり、エネルギー源として検討していく必要性を感じました。しかし現状では、ストーブ本体が高価である事、燃料である木質ペレットが安定供給できるか未定であること等から大々的に導入促進を行なう環境にないと思います。カーボンオフセット等の教育に使う為の導入程度は考えてもいいかと考えます。

・小中一貫教育について

上田、宇都宮両市の取り組み状況と、少しずつ表れている好結果を伺って、当湯沢町の進もうとしている教育方針に明るい展望を感じました。

しかしながら我が町は、少子化、園舎校舎の老朽化と耐震強度不足による建て替え、補修等の経済面から考えた統合施設建設が先行しているように思えます。その点両市は、現状教育を改善するための必要手段として一貫教育に取り組んでいます。湯沢町は両市がまだ行なったことのない保、小、中の一貫教育を一体校舎で行なおうとしています。宇都宮市の生田先生からも、大きな期待と可能性の言葉をいただきました。今まで以上に多くの視点から一貫教育を考えて世界に誇れる教育環境を、ハード、ソフト両面から構築すべきと感じました。

小水力発電についての説明